

掃水まちづくり協議会第9回総会

日時：4月13日（日）13時30分～

場所：掃水小学校体育館

*多数の皆様のご参加をよろしくお願い致します。



平成26年3月20日
掃水まちづくり協議会
93号



退任のあいさつ

榊田地区自治会連合会長
久瀬 幸

私は、平成22年よりこれまでの4年間、自治会連合会長をさせて頂いてきました。丁度、当時は掃水まちづくり協議会が5年目を迎え、榊田地域には掃水まちづくり協議会と自治会連合会とのよく似た大きな二つの組織が地域に存在するという分かりにくい状況を作り出し、きつと皆さんの中にも混乱をされた方も見えたのではないでしょうか。その間、自治会長の皆さんの協力の下、連合会行事でありながら一部の自治会だけで行われていた「一円玉募金活動」を全ての自治会で年2回の実施（本年度は約14万5千円）を恒例化し、その募金活動を通じ地域の絆づくりにも貢献をしました。また新しく「連合会会則」を設定し、連合会の目的や仕事内容を明確にしました。お陰様で、最近になり自治会連合会と

92号「分科会始動！」で紹介されました各分科会の委員に間違いがありました。ここに詫言びして訂正させて頂きます。（敬称略）

掃水まちづくり協議会とのそれぞれの受け持つ役割が少しずつはつきりしてきたように思います。

これからの自治会連合会は、地域全体にかかる行事はまちづくりに任せ、それぞれの自治会自体がしっかりとした強固な自治会組織をつくることを大事にします。また、まちづくり協議会に対しては人的支援（役員や動員）や物的支援（主にお金）を行い、まちづくり協議会の行事を応援します。掃水まちづくり協議会は連合会の支援を受け、榊田地域全体に及ぶ行事や安心で安全な施策を考え、実施していく役割を受け持ちます。

しかし、これからの榊田地区は高齢者が増え、自治会やまちづくり協議会に対して地域の皆さんの期待も大きくなり仕事は増えるばかりです。自治会連合会や各自治会長さんの活躍を大いに期待いたします。退任のあいさつといたします。

本当にお世話になりました。

*元気に暮らせる

まちづくり分科会

- 宇佐見 治代（豊原）
- 池田 稔（豊原）
- 蘭部 勉（豊原）
- 早川 美恵子（榊田）
- 西口 裕（榊田）
- 山地 ひかり（松阪市）
- 糸川 千久佐（松阪市）
- 奥田 隆利（第四包括）
- 鈴木 由香（社会福祉協議会）

*交流と文化の

まちづくり分科会

- 村居 俊子（山添）
- 松井 淳（榊田）
- 高木 幸子（小学校）
- 宮崎 浩成（山下）
- 小林 達男（伊賀町）
- 小路 裕弘（松阪市）

四・五月の行事予定	掃水まちづくり協議会第9回総会
	4月13日(日) 13:30～
	掃水小学校体育館
	親子ふれあいスポーツ教室
	5月10日(土)
掃水小学校運動場	市民体育祭
	5月18日(日)
	雨天順延5/24, 5/25
掃水小学校運動場	



3月15日(土)、はつらつクラブのやさしい畑でじゃがいもの種植えが行われました。収穫祭が楽しみです。

春のじゃがいも種植え

「掃水地区の日」は
4月23日(水)
当日のみ有効
この案内と1,000円以上お買上げの方に
20ポイントプレゼント
Aコープくしだ
営業時間 10時～21時(日曜日のみ9時オープン)
夜間、昼間レジパート、アルバイト募集
清掃係りアルバイト募集
デイリー、畜産、農産部門パート募集中

四国八十八ヶ所霊場
歩き遍路物語(三十四)

豊原町 岩塚 章

四国のお寺で一番

(標高九〇〇米) 高いお寺

いよいよ四国のお寺で一番高いお寺に挑戦。

九〇〇米のお山に登らなければならぬ。民宿の所が二四〇米、標高差六六〇米。山道は六キロ、やすやす登れるお山ではない。朝食抜き、にぎりめし二食・ペトボトル一本リュックに入れて早朝まだ夜明け前の五時前に出発した。徳島高速道の「高架下をくぐってすぐ登るんだよ」と言われて出発したのだが・・・いやその「ここから遍路登山」、この小さい看板を見逃してしまった。歩いてても歩いてても山道が無い。度々道を迷ってここまで歩いて来たが、「いや又々道に迷った」。とうとう一キロ近く余分な道を歩いてしまった。引き返す時の心細いこと。「あつ・・・ここから遍路登山道か」。そこそこ体力も消費したのか厳しい登り登りの山道が辛い。持って来たボトルのお茶が無くなってゆく。こんなにお茶を・・・思いながら空になっていった。お坊さん専用の車道に出た

伊勢街道を歩いてみた⑧

豊養稲荷社の左筋向いには、江戸末期頃の建物といわれた紅葉屋旅館があった。榎田橋の架け替えと道路の拡幅工事のため、立ち退きしなければならなかったのと、後継者がいなくなったため取り壊しとなった。紅葉屋のうな重は美味かった。

さらに歩を進めていくと、連子格子の對馬屋が左側に見える。對馬屋は、津藩の無人足(郷土)で明治五年まで代々豊原村の庄屋を勤めていた。また、榎田川の渡船の元締め(う)でもあったようで渡船の株四分の三を所有していた。「売渡船株之事」といういわゆる売買契約書が現存し、明治元年十二月に船仲間から船株四分の一を買って取っている。

屋号の對馬屋は、九代目の先祖が對馬守であったことから對馬屋という屋号にしたということである。大正時代になり和菓子製造販売を産業にして大いに繁盛した。現在の若い当主奥田泰平さんは、「いずれは和菓子屋をここで復活させたい。今和菓子職人の修行をしている」とのこと。応援したいものだ。

つづく

【道標】
對馬屋から堤防に向かうと、左

折する角に道標がある。「左さんくうみち」「右け加うみち」とある。左は参宮道、右は帰り道と言うしるしである。

「右け加うみち」の「け加う」は「下向」という字で、その意味は都を基点にして「都から地方に行く」と言うことなのだが、ここでは「伊勢神宮を基点」にした表現になっていて、「神宮から地方に帰る道」という道標だ。

そのことからこの道標は、他では見られない珍しい道標である。さらに道沿いに行き、突き当りを右折すると、また堤防に行き着く。ここには、宇治山田、齋宮、松阪、津までの距離が表示された道標がある。大正三年三月に立てられたとある。

この辺りに「太神宮常夜灯」があり、榎田川を渡る渡し場があった。川向(こう)の早馬瀬にも「太神宮常夜灯」があった。現在、この太神宮常夜灯は松坂城搦手口(からめてぐち)に移設されている。

渡しは渇水期の冬と春に仮橋が架けられ、増水期の夏と秋には

舟で向こう岸の早馬瀬に渡った。橋を渡る時は橋銭を、船で渡るときは船賃を徴収していたという。

ところで、お伊勢参りの人たちは、普通の年であるならば一日平均一千人前後、帰りの人々も一千人前後として、約二千人の人々が榎田川を往来していたことになる。

これが増水して二、三日足止めされたら五、六千人の人々が榎田川周辺にいたことになる。さらにこれが、お蔭参り・抜け参りの時はどんな状態だったのだろう。いろんなトラブルが発生したに違いない。周辺の村々ではどのように対処したのか。今は想像するしかないが、とんでもない数の群集を受け入れた村の人々の右往左往が見えるようだ。

ようやく榎田川の渡しまで辿り着いた。伊勢街道はまだまだ続くが、榎田村の参宮街道歩きはここまで。

